

地域資源を活かし育てるまちづくり

項目	基準値	状況・今後の対策等	評価
新規農業就業者数	8 (人)	集落での説明会等において、制度的な説明であったり、広報やHPにて補助金のPR等を図っているが、宇陀市において個人で農業で生計を立てるとなると現状厳しいと感じている方が多いと思われる。農地バンクがどれだけあるのかの把握及び広報も実施していくことが求められている。 今後については、<u>農業をしたいという移住希望者が増えてくるとも想定されることから、新規農業就業者数に繋がられるよう、連携を密にしていける必要がある。また、移住希望者に対しての更なる広報やPRを充実していく。</u>	A: 既に達成
	目標値		B: 順調
	25 (人)		C: やや遅れている
	実績		D: 遅れている
	10 (人)		
市内観光客数	基準値	観光については、観光誘致促進事業をはじめ、市内各所でイベント等を積極的に開催し、市外からも多数の参加者が来訪され、観光客数も増加している。 しかし、<u>観光戦略としての明確なビジョンがなく、更なる魅力創出に向けて、県とのまちづくり包括協定による誰もが住みやすいコンパクトなまちづくり、公共交通網の整備等と一体的に考えていく。</u>	A: 既に達成
	122 (万人)		B: 順調
	目標値		C: やや遅れている
	150 (万人)		D: 遅れている
	実績		
	127 (万人)		

政策	施策・事業	重要業績評価指標 (KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
1. 基幹産業である農林業の再生・活性化	①1400年の伝統を受け継ぐ『薬草のまち宇陀』の全国発信 ・薬草プロジェクト事業	●新規産業(薬草)に向けての商談	0	件	3	件	3	件	「地方創生先行型交付金・地方創生加速化交付金」を活用して事業を執行している。今後についても、「地方創生推進交付金」を活用するため、地域再生計画を申請中である。 <u>事業についても、順調に進んでおり、今後についても『薬草のまち宇陀』の全国発信を目指していく。</u> ※平成28年度現在 薬草生産面積70(a)、薬草生産者数70(人)	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		●薬草活用講演会(シンポジウム)参加	300	人	400	人	400	人		
		●薬草生産面積(圃場)	10	a	100	a	50	a		
		薬草を活用した商品開発品目数	0	品目	30	品目	11	品目		
		薬草生産者数	2	人	100	人	35	人		
	②高原野菜等のブランド化 ・特産品等認定開発補助事業 ・機能性表示支援事業 ・有害鳥獣対策の強化	機能性表示件数	0	件	10	件	0	件	機能性表示及び栄養成分表示は、 <u>平成28年度において、「黒豆」と「トウキ菜」等を地方創生加速化交付金を活用して、申請する予定</u> である。平成31年度末で10件の件数を目指す。 有害鳥獣被害額は、宇陀市鳥獣被害防止計画を中心に、 <u>捕獲体制を整え、捕獲推進を実施していることで、農林作物に甚大な被害をもたらしている有害鳥獣の削減につなげており、減少している。</u> 今後は、個体数の減少にも更に注力していく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		有害鳥獣被害額	11,600	千円	8,120	千円	8,848	千円		
	③宇陀産材の普及及び森林の保全 ・木材出荷促進事業 ・宇陀市産木材利用促進事業	木材搬出量	8,950	m³	17,150	m³	8,395	m³	市独自での政策の実現が中々厳しく、木材搬出量の増加が見込めないような現状である。 <u>H31年度の目標達成に向けて、市産材木材利用促進事業だけでなく、里山づくりによる森林保全をはじめ林業施策の事業展開を検討していく必要がある。</u>	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている

政策	施策・事業	重要業績評価指標 (KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
2. 地域資源を活かした観光戦略	①四季折々の自然をはじめとする宇陀の地域資源で観光地の魅力を創造 ・宿泊事業者誘致事業 ・観光誘致促進事業 ・まちなか食べ歩きチケット造成事業	宿泊観光客数	25,000	人	40,000	人	24,525	人	新たな宿泊事業者の事業展開が進めば、目標値である4万人の実現は可能である。今後は、スポーツ合宿等での誘致や観光を絡めたPRを民間と連携して図っていくことで増加を目指す。	A: 既に達成 B: 順調
		新規商品（着地型含む）の造成数	1	商品	20	商品	4	商品	まち協補助メニューの中で観光事業展開が今後期待されることから、新規商品（観光メニュー）の造成を図っていく。 また、市でも記紀万葉推進事業展開で、新しく女性をターゲットとした新規商品の造成も図って	C: やや遅れている D: 遅れている
	②健幸都市宇陀ならではのスポーツツーリズムの推進 ・還暦野球推進事業 ・自転車のまちづくり事業 ・大和高原スポーツツーリズム推進プロジェクト	市内観光客数【数値目標】	122	万人	150	万人	127	万人	還暦野球大会の積極的な誘致により、「還暦野球のまち」としての認知度向上は図れており、宿泊施設の利用や飲食店での消費にも繋がっている。 今後も、ウェルネス健幸都市の観点からも自転車や登山、トレッキングをはじめとするスポーツによる観光戦略を検討していく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
	③宇陀のおもてなし、農家レストラン・農家民宿等の支援 ・おもてなしのまちづくり ～農家レストラン・農家民宿支援事業～	農家レストラン・農家民宿数	0	件	5	件	0	件	平成28年度においても相談を受けたことがあったが、設立までには至らなかった。 まち協での空き家・空き店舗の有効活用も含めて農家レストランや農家民宿の支援を実現していく。設立にあたっての金融機関との連携やPRも含めた広報活動等検討の余地がある。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
	④色彩豊かな宇陀づくり ・かえて植樹推進事業 ・宇陀四季彩推進事業	市内観光客数【数値目標】	122	万人	150	万人	127	万人	市内観光資源と自然環境を活かし、花の植栽や保護により将来を見据えた彩り美しい観光地の形成を目指す。例えば、室生山上公園から東海自然歩道沿いに植栽する等。 また、色彩豊かな宇陀づくりとしては、自治会やまち協に対する団体補助による里山づくりとしてのモデル地区を作っていく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
3. 地場産業等への支援による仕事づくり	①未来に継承したい宇陀の地場産業等への支援 ・企業立地推進事業 ・うだチャレンジアシスト補助金事業 ・中小企業等施設改修・設備投資補助事業 ・宇陀市伝統技術後継者育成事業	進出企業数	1	件	5	件	0	件	進出企業数については、市の誘致等により進出に繋がった数として把握し、市内事業所の創業件数については、市の創業支援制度を活用して創業に至った件数として把握している。平成27年度の実績の1件については、榛原駅前の整骨院。 市内伝統産業後継者数は、今年度ニーズ調査を実施し、平成27年度末時点では、0人であるが、次年度以降には全国に募集をかけて、後継者不足の衰退を抑止することに繋げる。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		市内事業所の創業件数	1	件	5	件	1	件		
		市内伝統産業後継者数	0	人	5	人	0	人		
	②ICT等を活用し、宇陀の産業情報の発信や特産品等をPR販売 ・創業・既存企業等支援ネットワーク事業 ・ICTを活用した中小企業・個人店舗等情報提供事業 ・特産品・名産品PR事業	ポータルサイト利用事業社	30	社	60	社	0	社	平成26年度まで事業を展開していたが、平成27年度で一旦事業見直しの為、実績0件。 「創業・既存企業等支援ネットワーク事業」のメニューの一つであり、平成29年度からの事業実施予定である。 創業支援に向けた会議等も開催しており、創業支援の充実を図っていく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている

基本目標Ⅱ

ひと暮らしやすく交流が盛んなまちづくり

項目	基準値	状況・今後の対策等	評価
合計特殊出生率	0.90	目標値として設定している合計特殊出生率1.40には程遠いような状況となっている。合計特殊出生率については、急激な向上を見込めるものではないことから、長い目での推移をみていく必要がある。 ただし、宇陀市においては、全国や県(H26全国平均:1.47、H26県平均:1.27)と比べても非常に数値が低い。 様々な要因が絡んでいるのだが、 宇陀市の子育て環境の制度は他市町村から比べても非常に充実していると言える。 子どもを産み育てる環境が整っていることの更なるPR活動や、未婚である方に対する結婚に繋がる施策展開も必要とされている。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
	目標値		
	1.40		
	実績		
	0.87		
人口移動(社会減)	基準値	合計特殊出生率とともに、地方創生施策の最重要課題である社会減の抑制についても、目標値である▲150人より程遠いような現状となっている。 移住定住政策であるように、宇陀市に住み続けたい・住んでみたいと思わせる施策の展開が求められている。 補助金の交付を求めて移住に繋がるケースはほとんどなく、地道なPR活動や雇用の創出等、複合的に取り組みを推進していく必要がある。 子どもの頃からの情操教育の一環としてのふるさとの愛着により、故郷から離れたくない思いの醸成とともに、その思いに応えられる雇用環境の充実や近鉄沿線上にあり、大阪都心まで1時間と掛からない立地を活かしていく ことが大切である。また、昨年度締結した県とのまちづくり包括協定による誰もが住み良いコンパクトなまちを進めることで、魅力あるまちづくりの創出にも努めていく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
	約300 (人)		
	目標値		
	150 (人)		
	実績		
	385 (人)		

政策	施策・事業	重要業績評価指標(KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
1. 暮らしやすい宇陀市への移住・定住の促進強化	①働きながら住み続けられるまちの推進 ・空き家・空き店舗等の活用事業 ・女性のための就業支援事業 ・空き家情報バンク事業 ・定住促進奨励金交付金 ・榛原駅周辺若者定住プロジェクト ・子育て世代定住支援事業 ・宇陀の魅力発信事業	移住相談件数	60	件	120	件	60	件	HP・FB・移住交流ナビをはじめ、市外からの来訪者が多い「ひらら・アニマルパーク・道の駅」等にチラシを設置したり、県南部東部振興課と連携のもとPR活動を実施している。 移住相談は、電話相談や県と連携した大阪でのセミナー等があり、月5回のペースで相談を受けているが、平成31年度では月10回のペースで受けることができるよう周知活動の徹底を図っていく。 また、今年度の空き家情報バンクでの取り組みとして、 市外に居住の方を対象に固定資産税の納付書に空き家情報バンク登録チラシを同封している。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		空き家情報バンク登録件数	20	件	60	件	20	件		

政策	施策・事業	重要業績評価指標(KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
2. 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実	①婚活支援イベント等の充実 ・同窓会開催補助事業(アタック25) ・結婚支援事業～宇陀カップリングパーティ～	●出会い(同窓会)の開催への参加者数	0	人	200	人	0	人	「同窓会開催補助事業(アタック25)」については、平成27年度では25歳に限定したものであったため実績がなかった。 今年度から要綱改正し、20代での開催に緩和することで募集を図っている。現時点での募集もないため、直接的なPR活動の検討や飲食店側に対しての働きかけ(特設支援メニュー等)を検討していく。 年2回(夢創の里・伊那佐郵人)開催し、60名の参加があった。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
	②誰もが子どもを産みやすい環境の充実 ・出産祝い金支給事業 ・一般不妊治療助成事業	出生届け出件数	144	件	175	件	143	件	市独自の施策として、自己負担金の2分の1以内で、上限5万円の交付をしている。広報誌・HP・県医師会を通じての県産婦人科医会・健康づくり推進協議会にて周知を図っている。 平成25年度～27年度からの一般不妊治療助成者20組に対して、7組(出生予定数含む)が出生に繋がっている。 県でも推進している特定不妊治療も含めて、1人でも多くの子どもを産んでもらえる環境づくりに努めていく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		●一般不妊治療件数	5	件	10	件	13	件		
	③子育て支援の充実 ・便利な田舎～宇陀のレシピ事業～ ・三世代ファミリー同居・近居応援事業 ・ファミリーサポートセンター事業 ・子どもに育てられる地域づくり～地域子育てサポート事業～ ・病後児保育事業 ・一時預かり事業	子育て支援センター利用者数	6,700	人	7,500	人	7,450	人	子育て支援センターの利用者数は、子育て講座の積み重ねや開放ルームの土曜日実施など、できるだけニーズに合わせた事業展開を行っている結果、増加している。連日、利用する中で親子の繋がりが広がってきていると感じている。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		ファミリーサポートセンター活動件数	130	件	250	件	120	件	ファミリーサポートセンターは、土日祝に夕方7時まで利用可能であるので、一時保育で対応できない短時間等の利用部分の受け皿として機能している。 一時預かりは、料金も割安となっていることから、リピーターも非常に増えており、周知も広がりを見せている。	
		一時預かり利用者数	1,350	人	1,500	人	1,394	人	これら支援は、保護者の方々からも非常に好評の声を頂いており他市町村よりも充実していると感じている。	
3. 子どもが心身ともに健やかに成長する教育環境の充実	①夢を育む教育環境の充実 ・幼児教育環境充実事業 ・英語教育推進事業 ・子どもの夢を育てる「夢教室」事業 ・学びの広場UDAプラン・学力向上推進事業 ・学力学習状況調査事業 ・学校・地域パートナーシップ事業 ・中学校・乳幼児ふれあい体験事業	預かり保育利用者数	5,000	人	6,000	人	5,703	人	幼稚園のお子さんが14時以降の16時までの預かり保育を行っている。短時間労働の方が定期的に利用している。 16時まで延びた理由としては、子ども子育て会議でのアンケート調査の実施の中で、預かり保育の延長の意見が多数を占めていたことから平成27年度から延長に踏み切り効果が出ている。 ALT配置職員数についてはアウトカムの観点から少し離れた数値目標設定となっていることから、今後見直しの余地あり。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		ALT配置教員数	3	人	5	人	4	人		
	②元気な子どもづくりの推進 ・学校給食地産地消促進事業 ・うだ子ども元気づくりプロジェクト事業 ・平成子供のもり公園再生プロジェクト事業 ・子どもフェスタ事業	学校給食地産地消率(野菜・きのこ類)	10.5	%	20	%	12.6	%	平成28年度から、任意団体である「宇陀ランチプロジェクト」が地産地消率を上げることを目的に、まちづくり応援補助金を活用して、事業展開をしている。 ①自分たちで野菜を栽培して給食センターに届ける②市内で地産地消率を上げることに賛同いただける農家を募る③親子さんへの食に対する説明会等を実施している。徐々にではあるが、地産地消率の上昇が図れている。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている

基本目標Ⅲ

まち

地域が連携した安心・安全なまちづくり

項目	基準値		状況・今後の対策等	評価
地域づくり取り組み件数	12	(件)	まちづくり協議会については、行政側からの押しつけではなく、自らが考えることにより地域の実情に応じた活動しやすい組織づくりの醸成を目指している。その中で、いきいき地域づくり補助金の基本分と活動支援分を創設しており、活動支援分については、独自に取り組む事業に対して追加分の補助金を支給する。 <u>対象事業としては、「市外住民との交流事業、コミュニティビジネス事業、高齢者生きがいづくり事業、多世代交流事業、子ども支援事業」等を対象としており、補助メニューも明確に創設されたことにより、今後もまちづくり協議会を中心に、地域づくりの取り組み件数の増加を図っていく。</u> ※数値については、活動支援分のみ件数	A: 既に達成
	目標値			B: 順調
	100	(件)		C: やや遅れている
	実績			D: 遅れている
	28	(件)		
健康寿命県内順位	基準値		健康寿命とは、日常的に介護を必要とせず、自立した生活ができる生存期間のことである。 健康寿命(平均自立期間) = 平均余命 - 平均要介護期間(要介護2～5) 平成26年3月時点「男性82.47歳(奈良県全体:80.8歳)・女性84.65歳(奈良県全体:87.05歳)」 <u>健康寿命の延伸に向けては、「特定健診受診率の向上・生活習慣病の予防・食育活動の推進・ウェルネスシティ運動事業」等を積極的に取り組んでいる。</u> <u>健幸都市ウェルネスシティ宇陀市を掲げている以上は、県内における健康寿命の目標値に近づくように積極的な活動展開が求められている。</u>	A: 既に達成
	男性22・女性28	(位)		B: 順調
	目標値			C: やや遅れている
	男女1	(位)		D: 遅れている
	実績			
	男性21・女性32	(位)		

政策	施策・事業	重要業績評価指標(KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
1. 地域連携の強化	①市民が主役の地域づくり・まちづくりによる地域連携の強化 ・活力ある地域づくりは、まち協から ・ウェルネスシニア健康学校 ・高齢者見守り隊 ・安心・安全なまちづくり事業	●地域の拠点づくり(まち協設立)	—	件	3	件	1	件	・まちづくり協議会については、地域の拠点づくりとして大宇陀地域を含めた市内全域での設立を目指しており、平成28年4月30日に全域まで至った。 ・高齢者等見守り隊は、在宅の高齢者等に対し、高齢者等の孤独死の防止、見守り等を行っている。<u>登録自治会数の増加に向けて、社会福祉協議会を中心に活動を展開している。</u> ・ウェルネスシニア健康学校では、高齢者に学習の機会を提供し、学ぶことの喜びから生きがいづくり、ともに学ぶことから仲間づくりに繋げている。卒業生が、学んだことを地域サロンのなかでリーダー的役割を担う。<u>現在は、民生委員が多くを占めているが、幅広く呼びかけしていくことが課題である。</u> ・自主防災組織の結成にあたり、地域の高齢化の進行とともに、組織化が困難になってきていることや、まち協での防災取り組みとの違いについて理解してもらうことに困惑している。<u>目標達成に向けて、まずは地域における理解の浸透を図っていく。</u>	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		●コミュニティへの参加人数	—	人	2,000	人	2,000	人		
		高齢者見守り隊登録数	13	自治会	100	自治会	29	自治会		
		ウェルネスシニア健康学校卒業生	40	人	120	人	47	人		
		自主防災組織の結成率	61.7	%	100	%	66.71	%		

政策	施策・事業	重要業績評価指標(KPI)	基準値		目標値		実績		状況・今後の対策等	評価
2. 健幸都市ウェルネスシティ宇陀市の実現	①健幸を目指したウェルネスシティの推進 ・ウェルネスシティ“うだ”推進事業 ・宇陀市地域包括ケアシステム推進事業	特定健康診査受診率	24.7	%	60	%	26.9	%	・特定健康診査の受診については、国民健康保険加入者(40～74歳)が対象であるが、 <u>目標値の達成の 위해서는、かかりつけ医やまち協等との連携により、受診率の向上を図っていかなければならない。</u> ・居宅サービスの給付割合については、介護が必要となっても、できる限り住み慣れた家や地域で、在宅生活を継続することができるように、 <u>在宅医療体制の充実や医療と介護の連携の推進など包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指す。</u> ・医療介護あんしんセンター認知度及び訪問診療認知度については、平成27年度アンケート調査時点から変更がないため、数値の上下ないが、 <u>市民アンケート回答率が72.2%と関心の高さが窺える。</u>	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		介護保険サービスにおける居宅サービスの給付割合	35.3	%	40	%	35.7	%		
		医療介護あんしんセンター認知度	47.8	%	60	%	47.8	%		
		訪問診療認知度	67	%	70	%	67	%		
3. 誰もが住み良いコンパクトなまちづくりの実現	①小さな拠点づくり ・近鉄榛原駅周辺地区のまちづくり ・宇陀松山周辺地区のまちづくり ・うたの古市場地区周辺のまちづくり ・室生口大野駅周辺及び室生寺門前地区のまちづくり ②地域公共交通の整備 ・持続可能な地域公共交通ネットワーク形成事業	榛原駅前通り通行者数	50	人/時	100	人/時	—	人/時	・榛原駅前通り通行者数の数値については、今後計測の方法が難しいことから、見直しの余地あり。 ・小さな拠点づくりについては、 <u>昨年12月に締結した県とのまちづくり包括協定により第1歩目のステップを踏み出したと言える。</u> 誰もが住み良いコンパクトなまちづくりを実現させ、市民の方々の利便性の向上や市外の方々の訪問客数の増加を図っていく。	A: 既に達成 B: 順調 C: やや遅れている D: 遅れている
		重伝建地区(宇陀松山)訪問客数	28	万人	35	万人	29	万人		
		室生寺周辺訪問客数	19	万人	30	万人	14.6	万人		
		「奈良カエデの郷ひらら」周辺訪問客数	2	万人	5	万人	2.3	万人		